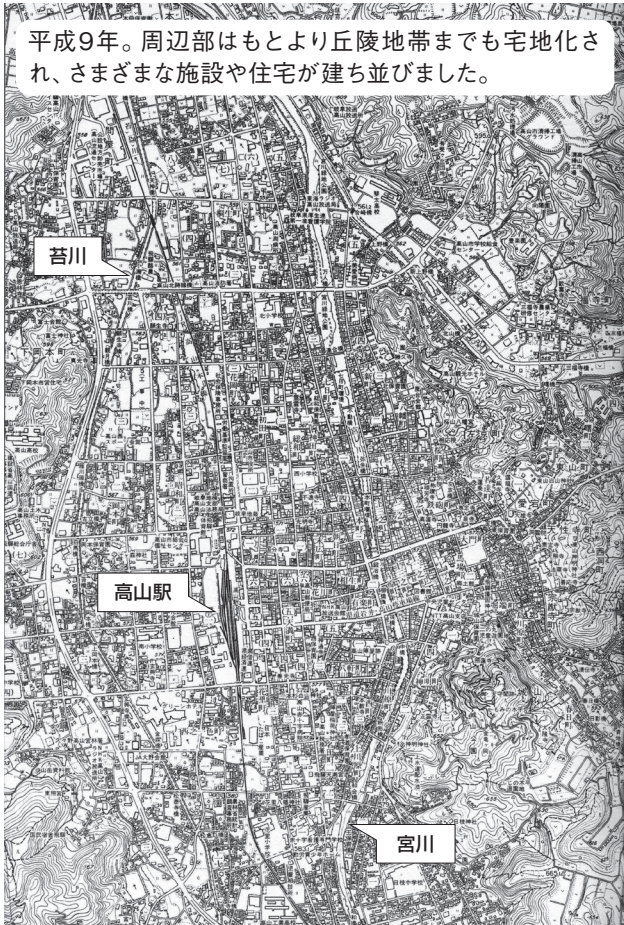
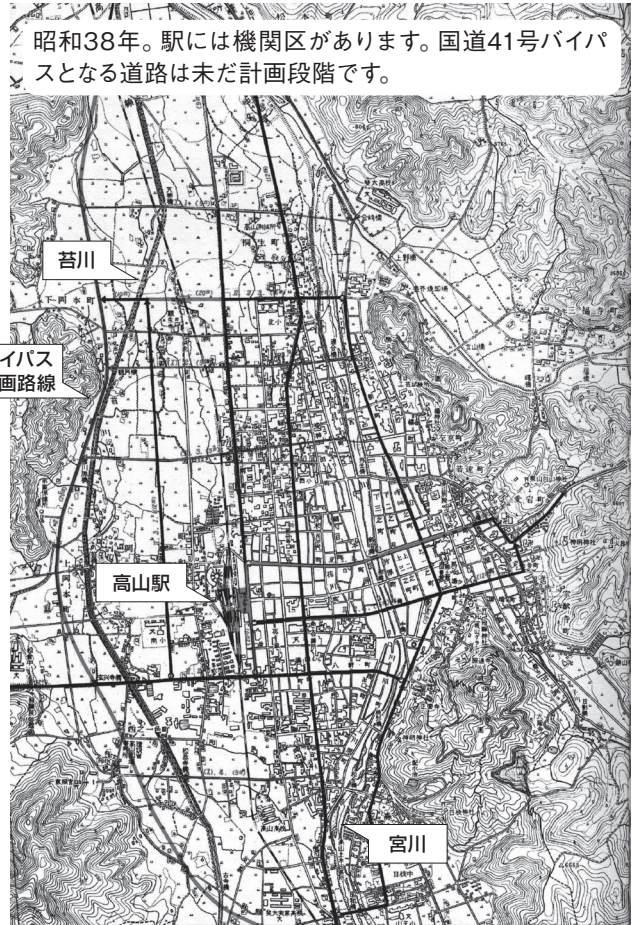


平成9年。周辺部はもとより丘陵地帯までも宅地化され、さまざまな施設や住宅が建ち並びました。



昭和38年。駅には機関区があります。国道41号バイパスとなる道路は未だ計画段階です。



東海北陸自動車道飛騨清見IC



長野県松本市から福井県福井市を結ぶ全体延長約160kmの高規格道路で現在、福井県内と岐阜県内の一部が開通しています。市内では、高山インターチェンジ（IC）から（仮称）丹生川ICの区間で工事が進んでいます。市内を走るもう一つの自動車道が東海北陸自動車道です。着工から約28年が経った平成20年7月に全線が開通し、太平洋と日本海が高規格道路で直結しました。現在は4車線化工事が白鳥IC～飛騨清見ICの区間で行われています。安房トンネル、中部縦貫自動車道、東海北陸自動車道といった高規格道路の整備は、飛騨の「第二の夜明け」と呼ばれます。

## 結びにあたり

高山市を取り巻く鉄道と道路網の整備は日々進みました。交通アクセスの向上は観光客の増加をもたらし、高規格道路の整備は緊急車両の搬送時間短縮をもたらすなど、観光や安全面などで大きな効果が生まれました。

市では、交通環境の変化を交流人口の増加に結び付けていくため、各種団体や周辺自治体と協力して誘客活動を積極的に行うとともに、高規格道路の事故や災害に備えて関連機関と連携した訓練を行っています。

さて、前述した高規格道路の工事以外に市内では現在、国道41号宮峠トンネルや国道361号（仮称）上ヶ洞トンネルなどの工事が進んでいます。とりわけ、上ヶ洞トンネルをはじめとする高根町内の整備が完了すると、安全性の向上はもちろんのこと、大型車の通行が可能となり、観光や経済などの物流が活発になります。「飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア」へのアクセスも向上するため、さらなる利用者の増加も見込まれます。

長野オリンピックを前に安房トンネルが開通したように、東京オリンピックを前に国道361号が整備され、そのことが飛騨にとっての「第三の夜明け」につながるものと期待してやみません。